

梶原莞爾・綿岡勲

目的別テーマ：ハイパフォーマンス/ハイブリッド繊維の評価と実用

17年度研究テーマ

15-5-20：繊維サプライチェーンの国際比較と最適化

ABSTRACT

In this project, the fiber supply chains of Europe (Britain), the United States and Asia (Hong Kong and Japan) are to be compared for optimizing the supply chain management in Japan. The marketing strategy of the enterprises corresponding to respective marketing channel and process was surveyed by a direct hearing from two apparel manufacturers each in Japan and Hong Kong. A further survey will be conducted on the apparel makers in the United States and Europe, and the characteristics of the fiber/textile supply chain in each country will be analyzed.

研究目的

繊維は歴史の長い産業であるだけに、そのサプライチェーンは各国それぞれ独特の形態を持っている。そのため国際化に際して種々の障害を生じており、ともすれば無駄な浪費を強いられるため、利益が上がらない構造になってしまった。本プロジェクトではヨーロッパ(英国)、米国、アジア(香港、日本)の3地域の繊維サプライチェーンを比較し、それぞれの地域の特徴を整理する。各地域において、現時点での繊維サプライチェーンのダイナミクスを時系列で追い、その強み、弱みを明らかにすると共に、そのサプライチェーン構築の歴史的、民族的背景を探る。現在プロダクトアウトからマーケットイン体制へ移行する必要性が言われているにもかかわらず、その体制にならないのは日本独自の紡糸メーカーや総合商社が軸となった垂直構造サプライチェーンに基づく構造的欠陥であると考えられる。本研究の成果を踏まえ、日本独自の繊維サプライチェーンの強みを生かしながら、国際化に対応できる新たなサプライチェーンの構築を提言することを目指す。

一年間の研究内容と成果

本年度は日本2社、香港2社のアパレルメーカーについて、その流通経路とその過程に対応する企業のマーケティング戦略を直接調査した。

香港のアパレルメーカーの1社はスポーツウエアを取り扱い、もう1社は一般アパレルメーカーだが、どちらも主力は米国カジュアルウエアのOEM(「Original Equipment Manufacturer」の略)形態である。しかしながら一部ODM(「Original Design Manufacturing」の略)の要素も組み入れ始めており、香港もOEMからODMへと変化してきていることがわかった。

日本の2社は自社ブランドであるが、1社はSPA(「Specialty store retailer of Private label Apparel」の略、製造小売業)形態で運営しており、もう1社は一般アパレルメーカーではあるが一部SPA的な素材の仕入れをしている。SPAの有名な事例はファーストリテイリング社(ユニクロ)である。日本の企業において伝統的なアパレルメーカーと商社との間の取り引きは、コストがかかるうえに時間もかかるので減少してきている。より効率的に素材を仕入れ、コストも最小限におさえるためアパレルメーカーが海外の素材メーカーに直接仕入れに向くことも珍しくない。

更に低価格と高級志向の2極化が進む中、低価格の商品を提供するメーカーは素材よりも、コストとデザインに重点をおいていることが分かった。

展望

香港のアパレルメーカーについての調査により、海外の繊維サプライチェーンについての調査の足がかりができた。今後は日本・香港での調査対象メーカーを広げるとともに、米国・ヨーロッパでのアパレルメーカーについても調査し、それぞれの国における繊維サプライチェーンについての特徴を整理していく。